令和７年度第１回高松市下水道事業運営検討委員会	資料１
令和７年５月２９日	

１　下水道使用料改定の必要性について

1　下水道事業会計の概要

（１）下水道事業会計の仕組み

下水道事業会計は次の３つの財布に分かれている

収益的収支（3条予算）

汚水処理に必要な施設の維持管理費や
使用料徴収などの経費と収入

収入：下水道使用料、一般会計繰入金など
支出：施設の維持管理費や動力費など

資本的収支（4条予算）

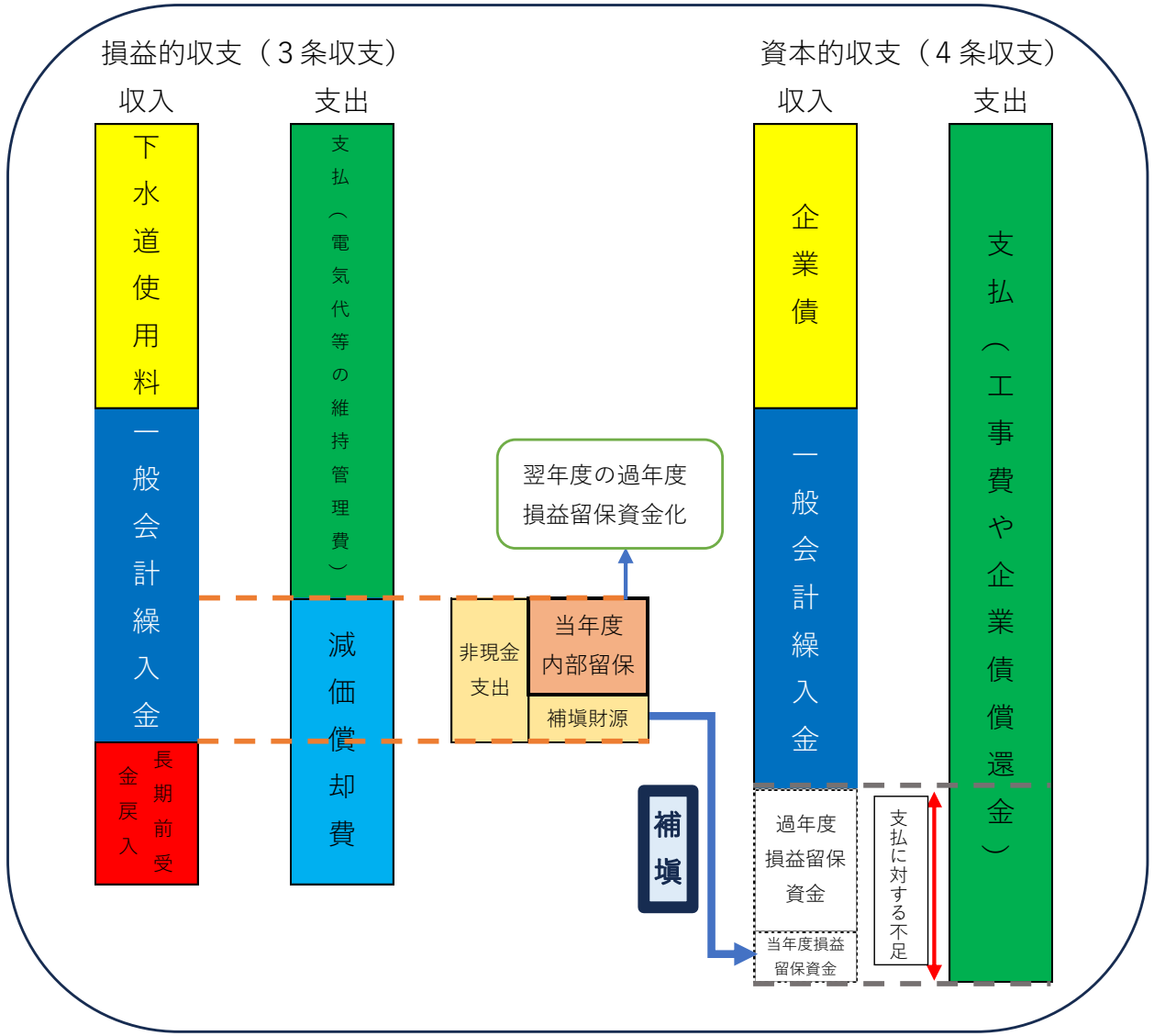
施設整備のための工事費など将来の収益のための投資経費と財源

収入：国・県補助金や企業債など
支出：施設の改築更新工事費や企業債償還金など

内部留保資金

通常、資本的収支は赤字となることから、収益的収支の減価償却費などの、過去の事業活動により得られた内部留保資金により、資本的収支の不足を補てん

収支のイメージ図



（２）　独立採算制の原則

下水道事業は、地方財政法上の公営企業とされ、その事業に伴う収入によってその経費を賄い、自立性をもって事業を継続していく「**独立採算制の原則**」を適用

本市においては、**平成２３年度から**地方公営企業法を適用し、**「公営企業会計」を導入**

（３）　雨水公費・汚水私費の原則

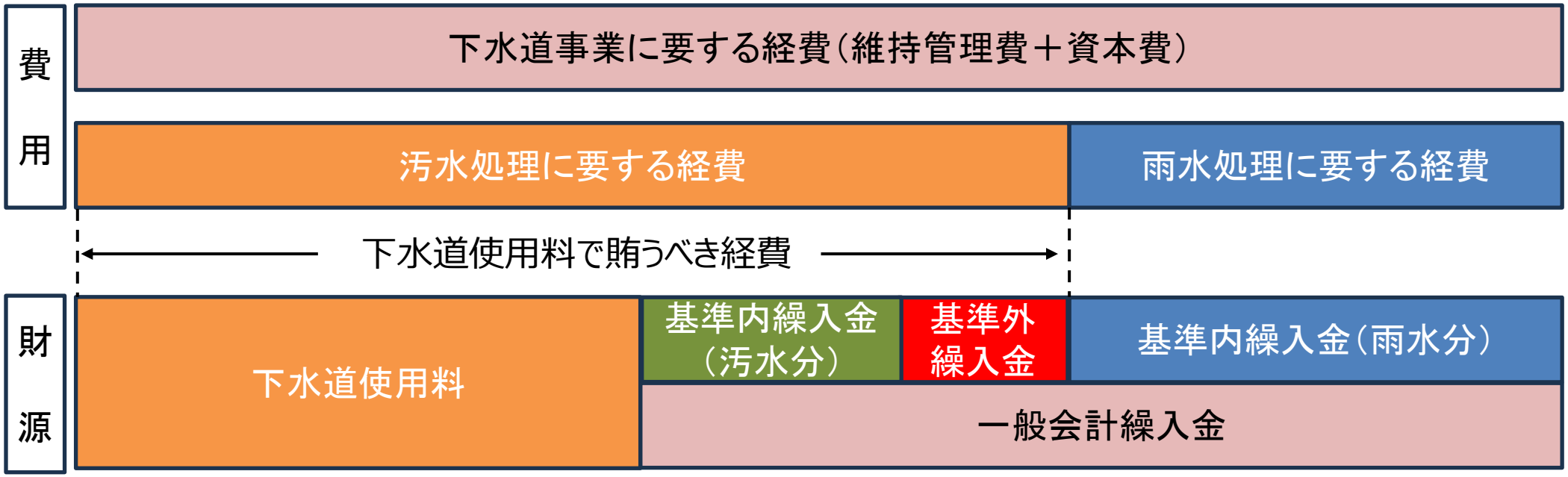
下水道事業に係る経費の負担区分は、**「雨水公費・汚水私費」が原則**。ただし、汚水処理に要する経費のうち、合流式下水道に比べ建設コストが割高になる**分流式下水道に要する経費**の一部などは、公的な便益も認められることから**公費により負担**

雨水処理に要する経費 ▶ **公費（一般会計からの繰入金）による負担**
雨水は、自然現象に起因し、排除による受益が広く及ぶことから、公費により負担

汚水処理に要する経費 ▶ **私費（下水道使用料）による負担**
汚水は、原因者や受益者が明らかなことから、私費（下水道使用料）により負担

（４）雨水公費・汚水私費のイメージ

・雨水公費・汚水私費の原則に従い、**雨水に係るものは全額基準内繰入金**で賄っている
・汚水処理費のうち、下水道使用料と基準内繰入金で賄えていない部分を**基準外繰入金**で賄っている



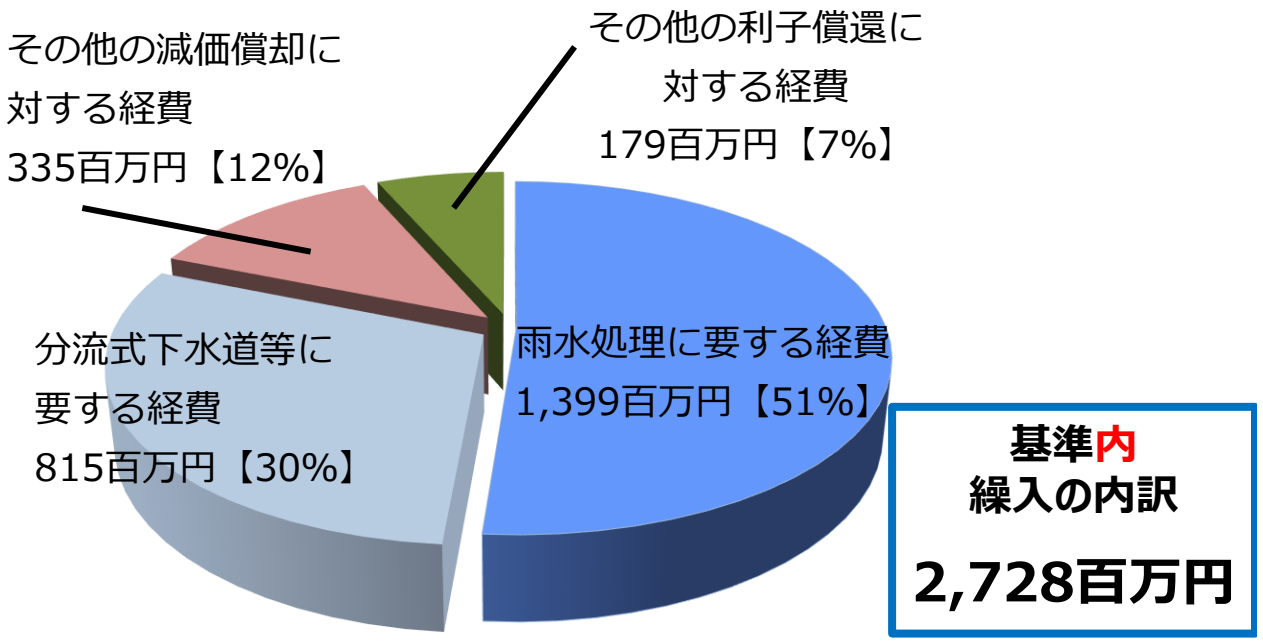
（５）一般会計繰入金とは

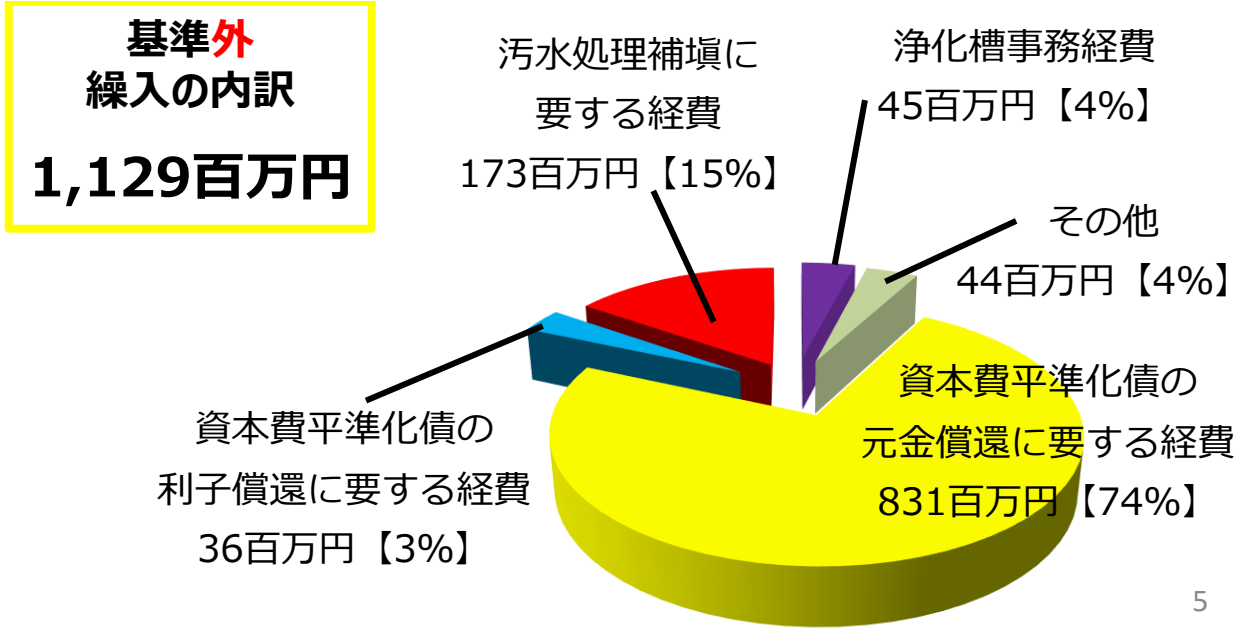
○**基準内繰入金**…毎年度、総務省から通知される「繰出基準」において、公費（一般会計からの繰入金）で負担することが認められている経費に充当するための繰入金

【例】
・雨水処理に要する経費　・分流式下水道に要する経費
・その公営企業会計の性質上、能率的な経営を行ってもなおその経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費　など

○**基準外繰入金**…繰出基準に該当せず、収支不足を補てんするための繰入金

令和５年度一般会計繰入金の内訳





2　本市下水道事業の財政状況

（１）　財政収支見通し　令和２年度－１１年度（税抜）

（単位：百万円）

			R2 決算	R3 決算	R4 決算	R5 決算	R6 見込	R7	R8	R9	R10	R11	財収期間合計（R6～11）	当初計画との増減（R6～11）
収益的収支	収入 ①	計画策定時	10,844	10,610	10,415	10,286	10,276	10,310	10,302	10,300	10,242	10,239	61,668	5,233
		中間見直し	**10,321**	**10,113**	**10,026**	**9,944**	**10,549**	**11,109**	**11,196**	**11,300**	**11,350**	**11,397**	**66,901**	
	支出 ②	計画策定時	10,844	10,610	10,415	10,286	10,275	10,310	10,302	10,300	10,242	10,239	61,668	5,233
		中間見直し	**10,321**	**10,113**	**10,026**	**9,944**	**10,549**	**11,109**	**11,196**	**11,300**	**11,350**	**11,397**	**66,901**	
	収支差引 ①-②	計画策定時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
		中間見直し	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	
資本的収支	収入 ③	計画策定時	5,855	6,983	6,703	6,999	6,986	8,113	6,669	5,230	5,269	4,712	36,979	5,244
		中間見直し	**5,429**	**6,351**	**5,703**	**5,421**	**7,048**	**7,982**	**7,821**	**6,406**	**5,431**	**7,535**	**42,223**	
	支出 ④	計画策定時	9,447	10,440	10,238	10,592	10,618	11,762	10,440	10,158	9,171	8,470	60,620	6,031
		中間見直し	**8,927**	**9,756**	**9,134**	**9,015**	**10,739**	**12,196**	**12,184**	**10,765**	**9,317**	**11,450**	**66,651**	
	収支差引 ③-④	計画策定時	▲ 3,592	▲ 3,457	▲ 3,535	▲ 3,593	▲ 3,633	▲ 3,649	▲ 3,771	▲ 4,928	▲ 3,902	▲ 3,758	▲ 23,641	▲ 787
		中間見直し	**▲ 3,498**	**▲ 3,405**	**▲ 3,431**	**▲ 3,594**	**▲ 3,691**	**▲ 4,214**	**▲ 4,363**	**▲ 4,359**	**▲ 3,886**	**▲ 3,915**	**▲ 24,428**	
その他	単年度資金収支	計画策定時	▲ 115	▲ 27	▲ 134	▲ 210	▲ 237	▲ 229	▲ 309	▲ 1,449	▲ 431	▲ 275	▲ 2,930	▲ 681
		中間見直し	**▲ 74**	**▲ 30**	**▲ 106**	**▲ 287**	**▲ 332**	**▲ 789**	**▲ 891**	**▲ 853**	**▲ 367**	**▲ 378**	**▲ 3,611**	
	当年度資金残高	計画策定時	2,141	2,114	1,980	1,771	1,553	1,304	995	▲ 454	▲ 885	▲ 1,160	－	▲ 298
		中間見直し	**2,576**	**2,546**	**2,440**	**2,153**	**1,821**	**1,031**	**141**	**▲ 713**	**▲ 1,080**	**▲ 1,458**	－	
	企業債残高	計画策定時	86,568	84,730	82,605	80,555	78,375	76,668	74,297	71,384	68,640	65,767	－	1,284
		中間見直し	**84,769**	**82,619**	**80,108**	**77,323**	**75,360**	**73,898**	**72,441**	**70,453**	**68,011**	**67,051**	－	
	一般会計繰入金	計画策定時	4,114	4,032	4,008	4,008	4,081	4,173	4194	4180	4124	4,101	24,853	6,729
		中間見直し	**3,730**	**3,733**	**3,828**	**3,858**	**4,596**	**5,215**	**5,341**	**5,442**	**5,473**	**5,516**	**31,582**	

※１　計画策定時欄は、策定時の見込み額　　※２　R2～R5年度の中間見直し欄は、決算額
※３　当年度資金残高及び企業債残高の当初計画値との増減については、R11年度残高における比較値
※４　一般会計繰入金欄は、収益的収支と資本的収支における同繰入金の合計額

令和９年度以降、慢性的な資金不足

（２）　収支改善の取組

①　支出削減の取組

○職員数の削減（正規職員）：実績

	下水道部局				
年度	H22	～	H30	～	R5
人数（人）	97		89		90
増減	**－**		**-8**		**＋1**

※削減の要因　①下水処理場等における包括的民間委託の導入
②下水道部設置に当たっての事務・体制見直し

・人員を必要最小限まで削減

○事業費の推移：実績（建設資材物価指数（土木部門）は、Ｒ２～Ｒ５の間で２７．３％増加）

	R2	R3	R4	R5
事業費	19,752	20,403	19,647	19,444

★公営企業会計制度の見直し後のＨ２６年度以降を抜粋
※ H28は香東川浄化センター移管に伴う費用含む

・物価高騰下においても、事業費の抑制に努めている
・費用対効果を考慮し、整備エリアの拡大は行わない

○オンサイトＰＰＡ方式による自家消費型太陽光発電設備の導入

・令和６年２月から香東川浄化センターにて、民間資金により太陽光発電設備を設置し、発電及び買電を開始

・電気代の削減
・「ゼロカーボンシティたかまつ」推進に寄与

②　収入増加の取組

○普及促進の実施による下水道接続率の向上

定期的な接続依頼文書の発送及び接続に支障となる問題の解決に向けた助言・指導を実施　（単位：%）

	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
下水道接続率（戸数ベース）	91.3	91.5	91.7	92.0	92.2	92.4	92.7	93.1

○バイオマス発電の実施

Ｈ２８年２月から消化ガスを利用した自家発電を開始し、全量を売電　（単位：千円　税抜）

	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
収入	73,689	80,484	81,424	83,093	94,210	95,849	94,822	94,173
経費	49,629	49,518	58,201	49,763	96,399	58,431	49,247	49,648
利益	**24,060**	**30,966**	**23,223**	**33,330**	**▲2,189**	**37,418**	**45,575**	**44,525**

○MICS事業（し尿との共同処理）の実施

Ｈ２９年４月から市内、三木町及び綾川町のし尿を東部下水処理場にて処理　（単位：千円　税抜）

	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
収入	160,098	138,001	110,178	138,787	107,668	105,238	111,749

（３）　資金不足の要因

①　使用料収入の減少・不足

○水道使用量の減少に伴う有収水量の減少
　人口減少、節水機器の普及など

▶ Ｈ30年度　　Ｒ５年度
有収水量27,500千㎥→26,499千㎥（3.6%減）
使用料　4,003百万円→3,804百万円（5.0%減）

○長期間（１５年）にわたる使用料改定見送り
（一般的には３～５年で改定の検討が適当）
使用料単価が低値に留まる
（使用料単価…使用料収入÷有収水量）

▶ 高松市　143.5円／㎥（Ｒ５決算時）
中四国中核市平均　176.3円／㎥（Ｒ５決算時）

②　維持管理・改築更新に要する費用の増加

○管きょ・施設の老朽化、物価高騰等

▶ 調査・修繕・改築費の増加、処理経費の増加

管きょ老朽化率（%）　（類似団体）

	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
高松市	18.79	20.10	21.43	21.38	22.94	24.46	26.02
平均値	4.54	4.85	4.95	5.64	6.43	7.75	9.44

※老朽化：整備から50年超を経過したもの
※類似団体：総務省の定めるところによる。
　○高松市の属する類似団体
　　・処理区域内人口10万人以上
　　・処理区域内人口密度75人／ha以上
　　・供用開始後30年以上

③　香川県広域水道企業団からの借入金返済

○令和９年度末までに１０億円の返済

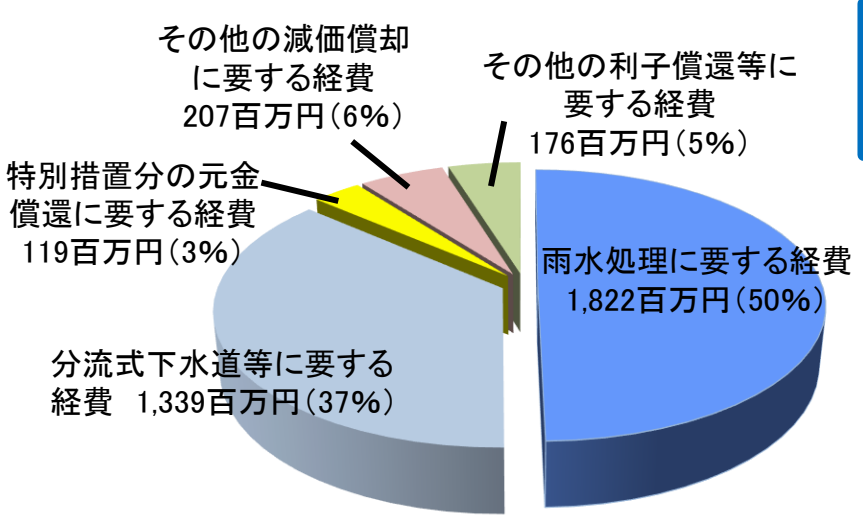
▶ 内部留保資金の大幅な減少

（４）　一般会計繰入金の状況

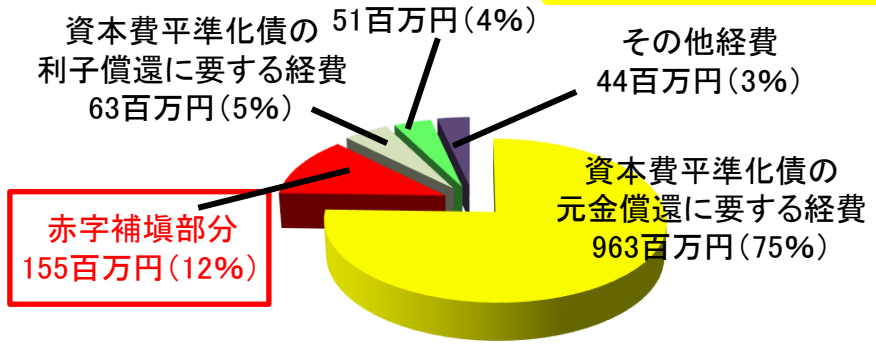
（単位：百万円）

当初予算	令和7年度	令和6年度	増減	備考
下水道事業負担金（3条予算）	3，486	3，416	70	減価償却・利子（雨水処理に要する経費、分流式下水道等）など
下水道事業補助金（3条予算）	155	159	▲4	水洗便所貸付金事務費、赤字補塡
下水道事業出資金（4条予算）	1，082	1，007	74	資本費平準化債（元金）、特別措置分（元金※交付税措置あり）
下水道事業負担金（4条予算）	215	0	215	雨水処理に要する資本費
合計	4，938	4，582	356	
繰出基準内	3，662	3，375	287	総務省通知によるもの
繰出基準外 （うち赤字補塡）	1，276 （155）	1，206 （158）	69 （▲4）	高松市の取決めによるもの

繰出基準内の内訳
3,662百万円【74%】



繰出基準外の内訳
1,276百万円【26%】



この解消が必要

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	平均
一般会計繰入金の推移（単位：百万円）	3,826	3,881	3,730	3,733	3,828	3,857	3,809

3　下水道使用料の状況について

（１）　現在までの本市の対応

① 原則３年ごとに下水道使用料の見直しを実施（改定時期：H13,H16,H22（H19は合併直後のため見送り）

② H22.6月改定　平均改定率14.8%　**1,985円/20㎥・月**　⇒　**2,279円/20㎥・月**（294円UP）（※税抜）

③ **上下水道事業基本計画において、「Ｈ３４年度（Ｒ４年度）以降での使用料改定を検討する必要」と明記**

④ H30.4.1 水道事業広域化に伴い、下水道部発足（上下水道局廃止）⇒ 上下水道事業基本計画の廃止

⑤ R2.3 (R元年度)**「高松市下水道事業基本計画」策定**

・同計画において、「**適正な使用料水準で市民の皆さまに負担を求めるなど、使用料の適正化に向けた検討をできるだけ早期に着手**」と明記

⑥ R7.3（R6年度）　**「高松市下水道事業基本計画」中間見直し**

・同計画において、**経費回収率の向上に向けたロードマップを示し、「下水道使用料改定の必要性について検証」**することを明記

（２）　今後の見通し

①　下水道使用料収入の大幅な減少見込み

（単位：百万円（税抜））

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
R2下水道事業基本計画策定時の見込み	4,003	4,002	4,012	4,000	3,998	3,995	4,004	3,990	3,986	3,986	39,976
見直し時の見込み（R2～5は決算値）	3,837	3,807	3,804	3,782	3,760	3,749	3,738	3,736	3,714	3,701	37,628
差　額（減少額）	-166	-195	-208	-218	-238	-246	-266	-254	-272	-285	-2,348

・基本計画時から１０年間で約２３億円もの減収

・財政状況の悪化、資金不足の加速

②　社会資本整備総合交付金（国庫補助）の交付要件厳格化

「社会資本整備総合交付金等の交付にあたっての要件等の運用について（国交省通知：R2.3　発出）」
「下水道事業における収支構造適正化に向けた取組の推進についての留意事項（国交省通知：R2.7　発出）」

令和７年度以降、**供用後３０年以上経過**しているにも関わらず、**使用料単価が１５０円／㎥未満**であり、かつ**経費回収率が８０%未満**であり、かつ**１５年以上使用料改定を行っていない**場合

⇒**未普及対策事業等に係る交付金が受けられない**

R７時点（本市）
供用後60年
使用料単価143.5円(R5)
経費回収率89.7%（R5）
使用料改定後１５年

下水道使用料の改定必要

今後、更なる経費の増加

（３）　使用料改定の必要性のまとめ

内的要因

- ○　最終使用料改定(H22.6)から15年が経過
- ○　香川県広域水道企業団への借入金返済による資金減少
- ○　老朽化による修繕、改築・更新費用の増大

外的要因

- ○　少子・超高齢化、節水機器の普及などによる使用料収入の減少
- ○　物価高騰・電気代高騰による経費の増加
- ○　社会資本整備総合交付金の要件厳格化

▶ **下水道使用料の改定が必要**